

山行報告書

山行管理部

ウィークデー 再度山(470m) 3月27日(CL高村・SL松本(正))参加 10名

新神戸駅バス停9:20～城山10:20～二本松バス停～11:00～大龍寺～
再度山山頂11:45(昼食)～再度公園(修法ヶ原池・トイレ)12:30～
大龍寺～市ヶ原13:10～みはらし展望台14:10

下見の時、曇りがち隙間から晴れていました。実施日は、前日まで雨でしたが、朝から終始青空で暖かくて、歩いていると、春の鳴き声・・・ホトギス・ヒヨドリなど、鳴き声がきこえてきました。

再度山山頂では、透き通った青空で神戸港など～関西空港はかすかにみえました。参加者は、男性6人・女性4人ですが、歩いていると女性の声が聞こえて、和やかな雰囲気でした。

その雰囲気の中で、途中怪我もなくみはらし展望台まで歩きました。

みんな、和気あいあいと歩き、楽しい登山ができました。皆さん、ご協力ありがとうございました。
(高村 記)

ターブル・自然保護部合同山行「章魚頭姿山(たこずしやま)136m」

実施日 令和6年4月7日(日) 天候は薄曇り後晴れ 微風 参加者 11名
ターブル CL 稲田、SL 上坂、自然保護担当 飯塚、杉谷、サポート重岡さん
(稲田理 記)

JR紀三井寺駅9時40分発⇒妹背山10時7分着(体操・コース説明)⇒不老橋⇒紀州東照宮⇒紀州天満宮(章魚頭姿山登山口)⇒章魚頭姿山11時50分着(タンポポ観察・昼食・野点)⇒蓬莱岩(砂浜散策シーグラス収集・海鵜観察)⇒浪早岬(紀淡海峡眺望)⇒奥和歌大橋⇒雑賀崎集落・漁港14時15分着(漁協昼市見学) 解散
歩行距離 8.3 km 歩行時間(観察・休憩含む)4時間35分 雑賀崎カフェで反省会

初めての自然保護部との合同山行、自然観察や環境・景観保護についても意識しつつ歩けるコースを設定しました。JR 紀三井寺駅からハイキングをスタート、和歌の浦の不老橋に到着、歴史的景観である江戸時代に造られた不老橋と自動車道のために造られた平成の新不老橋を見学し紀州東照宮へ、神社境内に残された原生林を見ながら紀州天満宮へ、ここの急峻な参道石段はこの地で産出される紀州青石(緑泥片岩)で作られており見応え、上り応えを体感して頂きました。天満宮境内より章魚頭姿山登山道に入り途中にてカンサイタンポポ(日本在来種)の観察会を実施、関西では希少種のシロバナタン

ポガも散見され観察会は大盛り上がり、章魚頭姿山山頂は桜が満開で、その桜の下で念願の野点を開催、重岡さんのお点前で参加者皆さん美味しく抹茶を味わって頂きました。章魚頭姿山展望台より紀淡海峡、淡路島、昨年 9 月例会で訪れた友ヶ島、秋に公開山行が予定されている紀北の名峰「龍門山」、紀泉山脈、熊野古道藤白峠等々の 360 度眺望を堪能し下山、海岸線に出て蓬莱岩付近の砂浜にてシーグラス採集、海岸線遊歩道を進み浪早岬を越えて紀淡海峡の絶景を堪能し奥和歌大橋より日本のアマルフィ「雑賀崎」を眺め最終目的地の雑賀崎漁港へ、朝に漁に出て昼に帰港した漁船よりおろされた魚介類の昼市(漁師直売)を見学した後に解散、バスの時間まで海が見えるカフェテラスにて反省会！野点を段取りして頂いた重岡さん、ご参加頂きわいわいがやがや楽しく歩いて頂いた皆様、ありがとうございました。



ウィークデイ 牛松山 4月10日 CL山口 SL猪瀬 参加者8名

JR 亀岡駅北口バス停発 10:05⇒ 国分バス停着 10:20→愛宕神社登山口 10:40→629m三角点 11:50→636m 三角点 12:00→金刀比羅神社 12:10 昼食 12:40→牛松山登山口 13:50→亀岡駅 14:45 (解散)

北口バス停から見える牛松山はその山容から地元では「丹波富士」と呼ばれています。

国分でバスを降り、登山口のある愛宕神社へ向い「ここから山頂まで 70 分」の標識を確認しスタート。歩き始めから傾斜がきつく、展望はなく、静かな樹林帯をひたすら山頂を目指して歩き、所どころで山桜やミツバツツジ、アセビの花に癒され、最初の三角点 629m に到着。そこから少し登った 636m にも三角点。??? 2 つ目の三角点を少し下った金刀比羅神社で昼食。

下山は金刀比羅神社の鳥居からスタート。すぐそばに十八丁と書かれた石の道標。十七、十六と丁石を確認して下り、十五丁と十四丁の間の眺望ポイントから保津川と保津橋、京都サンガスタジアムが見えてちょっと感動。

下山後亀岡駅へ向かう途中、のどかな畑近くで桜の花びらベンチに座ってプチ花見。
お天気に恵まれ無事に下山でき感謝です。皆さんお疲れ様でした。（猪瀬記）

サロン 高知県立牧野植物園と高知城 3月30日～3月31日

CL 島田 SL 宇野 参加者 15名

3/30 森ノ宮 8:00 → 牧野植物園 13:20 → ホテル 16:20 → 屋台村夕食

3/31 ホテル発 7:50 → 龍馬記念館 8:00 → 高知城 9:50 → 高知城博物館 11:30
→ 日曜市(昼食) → 出発 13:20 → 森ノ宮着 18:50

四国に入ると満開の山桜が迎えてくれました。五台山の自然の中にある牧野植物園では
3000種を超える植物が生息しているそうです。園内を散策しながら見学しました。

夜は屋台村での夕食、名物のワラ焼きの鰹のたたき、各人好きなものを買って観光客で
溢れる店で食事しました。

2日目は龍馬記念館へ、土佐は多くの英傑を出した藩、その足跡と人なりを学び時間が
足りない程でした。1749年に再建された高知城では、満開の桜の大手門から入城しまし
た。見事な乱積、整層積の石垣と松、天守とのバランスの良い景色に感動しました。

博物館を見学後、昼食を兼ねた日曜市では、ビロウ樹の並木道に多くのお店、寿司とみ
かんを八金のおばちゃんから買い求め、南国風のビロウ樹の木の下で食べました。

見所いっぱい土佐の地をCLのテキパキした案内で計画通りに楽しい観光を終えました。
皆様ありがとうございました。

(追伸)八金とは、4人の男性を一括にした様な逞しい女性の事を言うそうです。

八金の
雑然店で
初鰹

肩組みて
乙女姉やと
春の夢

龍馬像と
並びて写る
春の海

野面城
千代の功有り
ひこばゆる

獅子の足跡^{あと}
追って城下は
桜盛り^{はな}

(宇野 記)

教育部 きたろうハイキングABC

記入者 高桑

【山行日】 2024年4月5日 (金)

【場所】 宝塚→武田尾

【参加者】 6名 高桑, 出口, 北, 豊村, 高橋, 豊村家族

【コース記録】

09:00 JR生瀬駅— 11:00 さくら園口 — 13:00 親水公園—15:00 武田尾解散

【内容】

- ・コンパスの使い方 進むべき方向の設定方法
- ・地形の見方 尾根、山腹、谷の等高線の地図と実際の地形の比較
- ・セルフレスキューツェルトの利用方法の実技と必携性の講習
- ・新入会員への諸説明

【感想】

春のABCはよく雨に降られるが、今年は束の間の好天に恵まれた。

早春の予想では平年より早いと思い満開の桜を期待して、この日に計画したが、逆に平年より数日遅れの開花のようでした。専門家でも当たらないのに仕方ないと諦める。でも一本のソメイヨシノが満開だったのが救いであった。

そして、初めて平日に実施したのは混雑を避ける意図でした。しかし、結構人出もありましたが河原でツェルトの実技をするぐらいの余裕は十分あり、意図としては良かったと思いました。多分土日の賑わいは凄いと思います。

来年以降は新会員の都合も鑑みて判断しようと思います。

追記 :国道 176 号線の生瀬トンネルが開通して廃線道までの歩行者通路が幅広くなっていました。しかし、その入り口への横断歩道は信号がないので要注意です。

有志山行 探鳥会 奈良公園 奈良県 4月14日 (日) 晴れ

CL 井、SL 目加田 参加7名

近鉄奈良駅～吉城園～大仏池～鏡池 (昼食) ～春日野～奈良春日野国際フォーラム薨～飛火野～鹿苑～ささやきの小径～鷺池～荒池 (鳥合せ)

予想通りのうだるような暑さの中、外国からの観光客がひしめく間を縫っての探鳥会であった。

駅を出て国道沿いに東進すると、あちこちで地面をついばむツグミを見かけた。渡りの前にエネルギーを蓄えているのであろう。無料開放されている吉城園で、きれいに整備された庭園鑑賞をしながら鳥を探すも、2週間前の下見時に比べ、姿、鳴き声共少なかった。メジロを観察。吉城園を出てすぐの所に、たくさんのヤドリギを樹上に生やした大木がある。ヤドリギの実を好んで食べる、ヒレンジャク、キレンジャクを期待し、しばらく観察したが、現れなかった。東大寺大仏

殿と戒壇院の間の丘陵でシジュウカラ、カワラヒワを観察。スズメはいるが、ニュウナイスズメは観察できなかった。大仏池では最初カモが見られず、時期遅しと諦めかけたが、カルガモとカイツブリを発見。下見時に、カメラマンから教えてもらった、ヒレンジャク、キレンジャクが大群で来たという大仏池近くのヤドリギをしばらく観察したがここにも現れなかった。昼食後参加者のKさんの提案で、奈良春日野国際フォーラム薨に立ち寄った。観光客のいない静かな、きれいに整備された裏の庭の散策を楽しんだ。一方、外で一人観察を続けていたCLは、イソヒヨドリとコガモを観察！ささやきの小径では、小鳥の鳴き声がよく聞こえたが、姿を見ることはできなかった。荒池では岸辺で昼寝をするヒドリガモを観察。この後鳥合せをし双眼鏡も仕舞ったあと、この日の観察数の少なさを詫びるかのように、向こう岸にダイサギが降り立った。CLの望遠鏡でしばらく優美な姿を観察した。木々の葉が茂り、鳥の姿を見つけ難いこともあり、種、数ともにやや少なかった。鳴き声を聞き分けることができればよかったのだが・・・。

カモ科3、カイツブリ科1、サギ科1、シジュウカラ科1、ヒタキ科2、セキレイ科1、アトリ科1など合計20種を観察。 (目加田 記)